

星ヶ城跡

小豆島の最高峰(星ヶ城山)

小豆島最高峰である星ヶ城山は、東峰(816m)と西峰(805m)が約400m隔てて並んでいます。

星ヶ城山には南北朝時代に、備前の豪族佐々木信胤が南朝方に呼応し、防御の拠点とした山城の星ヶ城跡があり西峰が本城、東峰が詰の城跡となっています。



榎の小道



西峰からの展望



西峰 阿豆枳神社

星ヶ城西峰

A 拡大図



西 峰

本城の西峰には一の木戸、空壕、土壇、曲輪、居館跡、鍛冶場跡、土塁などの遺構があります。

① 鍛冶場跡

城を築くために必要な金具や武器を製造するために築いた鍛冶場跡で、多数の鉄滓が散乱していました。

② 下の空壕

外敵から身を隠し行動するための防御ほりで、長さ10.8m幅4m深さ1.5mを計ることができます。

③ 居館跡

東西26m南北10mの平坦地で排水を考えて北方がゆるい下り勾配になっており、東峰の居館跡との見通しがよい位置にあります。

④ 水の手曲輪

山頂部から北側の山腹の降雨を集めて貯水する施設で、南より安山岩を敷き詰めた水汲み道が構築されています。

⑤ 土壇

東西27m南北20m程の平坦地で、空壕の掘削によって生じた残土を盛り上げて造成しています。

⑥ 外空壕

一の木戸から攻め寄せる軍勢を食い止めるための壕で、深さは約3.5m幅19mを計ることができます。

⑦⑦ 阿豆枳島神社

島の最高峰星ヶ城山の西峰に、島の祖神として大野手比売をまつる阿豆枳島神社が、東峰には五穀豊穡の神、豊受大御神が奉祀されています。日本の最初の書物「古事記」に伊邪那岐(いざなぎ)・伊邪那美(いざなみ)の二神が日本の大八州(おおやしま)につづいて十番目に「小豆島(あづしま)」を国生みし別名を「大野手比売(おおねでひめ)」

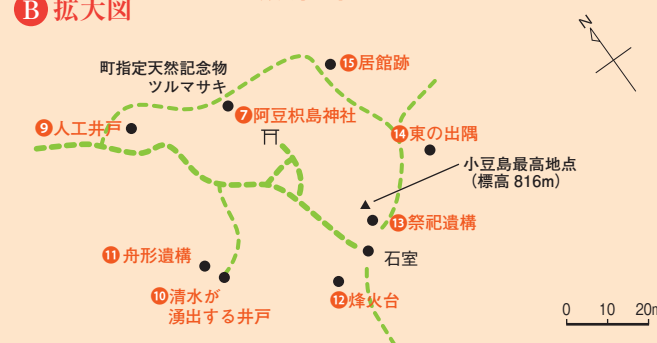
というとあります。西峰阿豆枳島神社は島魂の神と農耕の水を司る神を祀っています。東峰阿豆枳島神社は、この山に直接連なる四方指(五神座丸(ごじがまる))に祀られていた豊受大御神他五神を移座して奉祀しています。共に江戸後期文化年間の再興と言われています。

⑧ 星ヶ城神社

佐々木飽浦三郎左衛門尉信胤を祀っています。

星ヶ城東峰

B 拡大図



東 峰

東峰の詰の城にも天然の涌泉や人工井戸、土塁、居館跡、石塁、祭祀跡、舟形遺構など多くの遺構があります。

⑨ 人工井戸

深さ5.5mほぼ2.5m平方の広さがあり、雨水などを貯水して緊急の場合にそなえたものと考えられます。

⑩ 井戸

真夏でも水が涸れたことがない自然湧水を利用した井戸です。

⑪ 舟形遺構

長さ6m幅3mの舟形に板状の石が散乱しており、石塁を築くための石の採取場であったと推定されます。

⑫ 烽火台

東西3.6m、南北5.1mの凹地、緊急時に集落があった、草壁、安田方面との連絡に利用したものと思われる。

⑬ 祭祀遺構

発掘調査によって、土師器の細片が多数出土しました。城が築かれる以前の古い祭祀の遺構と考えられています。

⑭ 東の出隅

山頂部をめぐる石塁東方の角の部分で、石塁強化するための角石積みです。

⑮ 居館跡

西峰の居館跡がよく見渡せる場所で何棟かの建物が建てられていたものと推定されます。

佐々木 信胤(ささき のぶたね)

佐々木信胤はもともと、北朝方の大将である細川定禅に依りて京都攻めに加わった勇将ですが、足利幕府を開き初代将軍となった足利尊氏の有力な参謀の愛人と共に失踪し、南朝方へ転じました。信胤が小豆島に来島した時期については、一般的に1339年に拠島したと考えられています。その8年後の1347年に阿波、淡路、讃岐及び備前から集められた北朝軍の大軍勢に攻められ、丸1カ月間の合戦の末、敗れて降伏しました。

